

ROSEリポジトリいばらき（茨城大学学術情報リポジトリ）

Title	巻頭言：辞書にないことば
Author(s)	橘, 豊
Citation	茨城大学国語国文学(15): 1-3
Issue Date	1966
URL	http://hdl.handle.net/10109/8299
Rights	

このリポジトリに収録されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作権者に帰属します。引用、転載、複製等される場合は、著作権法を遵守してください。

お問合せ先

茨城大学学術企画部学術情報課（図書館） 情報支援係
<http://www.lib.ibaraki.ac.jp/toiawase/toiawase.html>

辞書にないことば

本学教官 橘

豊

職業柄、私は辞書を使ふことが多い。辞書といつても、私の場合は、辞海・広辞林・大日本国語辞典といつた類の国語の辞典である。

辞書を分類して、書くための辞書と読むための辞書とがあるとされたのは橋本進吉博士であつたが、使用目的といふ点から考へると、「この字はこれで正しいのだらうか」或いは「かういふ言ひ廻しは許されるだらうか」と確めるために、いはば知識を求めるために使ふといふ場合も多いやうである。さういふ目的で辞書を使ふ場合には、辞書に照らしてそこに載つてゐない用法は誤りだといふ具合に判定するのである。辞書はいはば戸籍簿のやうなものであつて、辞書に登録されてゐないことばは市民権を得られないといふわけである。

但、さういふことが言い得る為には、辞書は全ての語彙を余す所なく収録してゐるといふことが前提になつてゐなければならぬが、さて、さう思つて辞書に対してみると、実際には辞書に載つてゐない語が少なからずあるのに気が付いて驚くのである。

一体、(通常の国語の)辞書に載つてゐない語とは、どんな種類の語だらうか。その一つは、「(ロール

シャツハが試みた) インクプロットテスト」といつた學術語若しくは職業的専門語がある。それらを収録するためには別に専門分野毎の辞典吉しくは事典が編纂されてゐる場合が多い。第二に、特殊な専門用語ではなく、日常語として世間に流通している語でありながら、辞書に該当項目のないものとして新語がある。新語は「団地」とか「下取り」といつた、生活様式や社会風俗の変動に伴つて最近俄に用ゐられるやうになつたものであつて、この中には「ゴールデンウィーク」、「ルームクローラー」といつた外来語(若しくは和製英語)が含まれる。

勿論、右のやうな範圍の語であつても、例へば「団地」が広辞苑の改訂版に収録されるといふやうに、日常語として固定したものは順次採録して行くといふ努力は絶えず払はれている。併しながら、所詮辞書が納め得る有限の語数に比して、言葉の森は余りにも広く深いと言はうか、この程度の語は当然載つてゐるだらうと思ふ語が案外載つてゐなかつたりするのである。私が氣のついた例を拾ひ出してみると、「一匹狼」「家父長」「軍事費」「テールブルマー」「飛石連休」「とつくり首のセーター」「夏ばて」「バウンドケーキ」などは、辞書に記載のない語である。「恥部」といふ語もその一つであるが、次に掲げるのは、この語が実際に、それもかなり広く使用されてゐることを示す実例である。

恥部を露はに語つてゐる顔が醜いやうに、俊輔の醜さには、恥部を隠す力を失つた精神の衰へた裸体のやうな一種直視の憚られるものがあつたのである

(三島由紀夫『禁色』第一章)

食堂は会社の「恥部」あつかい……………

(週刊サンケイ昭和39年10月5日号)

アメリカの恥部である人種偏見を心から憎んでいることは間違ひあるまじ。

(朝日新聞昭和40年2月8日)

この語が何故辞書に載つてゐないのか、その理由は遽に定め難いが、以下私の忖度する所を申し述べると、あらまし次のやうなことになる。

右の三例を見ても明らかな通り、『禁色』の例が最も古い(昭和26年1月から10月まで『群像』に連載)。そこで、或いは、この語は(言葉を創造する人といふ意味での)詩人三島氏による造語であるかも知れないと思ふのである。然うとすれば、この語は第二次大戦後生れの新語であるため(といつても既に誕生以来十六歳になるわけだが)、未だ辞書に登録されてゐないのだとも見られるのである。この語に限つて、殊更登録に手間取つてゐるとすれば、それは、この語が日常語化したのは近々二、三年のことと考えられる故であらう。其の間、語義も初め三島が用ゐた、「(人体の)陰部」の意から、「人目に曝したくない場所」「恥づべき部分」といふ具合に転化、若しくは拡張して使はれるやうになつてゐる。

次に、これは単独では現れない語であるが、「百万円と言へば使ひで、がある」「バスに四時間も乗るとは随分乗りでがある」といふ場合の「で」も辞書に認められてゐない語である。私は、常に動詞の連用形に接続して用ゐられる点がらみて、「話し方」「飛び方」といふ場合の「方」などと同類の、形式名詞の一つと考へてゐる。或いは、それ位の語は一々辞書を引かなくても分る、と言はれるかも知れない。併し、辞書が国語の戸籍の役割をも果すものであることを思ふ時、右に挙げたやうな語も収載すべきであると思ふのである。さもないと、「このラーメンは五十円にしては食べで、があるね」といふ表現は誤りだと極付けられることになりかねないからである。

(昭和四二・二・一一)